

スマートアイランドの推進に向けた第2回ニーズ募集結果 一覧  
R2.12.25

1	東京都大島町	P1
2	愛知県南知多町	P3
3	岡山県笠岡市	P5
4	広島県広島市	P7
5	福岡県福岡市	P9
6	長崎県佐世保市	P11

地方公共団体名: 東京都大島町

○提案内容

(1) 実現したい島のビジョン・方向性	
<p><b>【水産業】</b> 近海に好漁場を持つ本島の漁業は、基幹産業として位置づけられていながら、近年、資源の枯渇や魚価の低迷、燃料価格の高騰、漁業者の高齢化、後継者不足など、漁業を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。そのような中で漁業を活性化させるために、漁場や漁港の整備などの基盤整備を行い、種苗を放流するなど資源保護に努めながら生産拡大を図り、つくり育てる漁業の振興のため、漁業協同組合と栽培漁業センター等関係機関と連携し、漁家経営の安定化を目指します。</p> <p><b>【観光業】</b> 伊豆大島ジオパークを活用し、様々な手法により地域の経済活動と結びつけながら、地域資源(魅力)をわかりやすく伝え、巡り、味わい楽しめる環境の整備を図ります。日本ジオパーク認定や国際優秀つばき園認定を機に、既存する資源を時代に合った魅力あるものにみがきあげるとともに、年間を通し来島者に「行ってみたい」「また行きたい」「住んでみたい」と思われるような島の魅力づくりや、旅行者属性や交通手段・所要時間等に応じたモデルコースや、ガイドマップ・ガイドブックを作成するなど、わかりやすい情報の創出を検討し、着地型観光の推進を図ります。</p>	
(2) 新技術の導入により解決したい離島の課題	課題の分類
<p><b>【水産業】</b> 伊豆大島は、1年中魚種の豊富な黒潮が周りを流れているため、近海は好漁場が形成される良好な自然環境を有しており、漁業は主産業であった。しかし、近年の環境変化等の要因で磯焼けが進み、貝や餌になる藻類等の資源が少なくなり、10年前と比べて貝の漁獲量が25tも減少している状況であり、漁業の衰退が問題になっている。 つくり育てる漁業として養殖も検討したが、台風の影響も多く、年間を通して波が荒く、海上養殖は難しい状況である。</p> <p><b>【観光業】</b> 様々な手法により地域の経済活動と結び付けながら、地域資源(魅力)をわかりやすく伝え、巡り、味わい楽しめる環境が整っておらず、そのような商品も不足している。 来訪者が伊豆大島ジオパークの見どころを安全かつ、より魅力的に楽しめるようなジオツアーが不足しており、またガイド窓口も整備されていない。 大島をフィールドとした教育旅行団体等が、移動手段の確保、宿泊施設、来訪中の食事手配をスムーズに行えるシステムが無いため、団体客の負担感が生じており、リピーターが確保できない。</p>	<p>下記のうち、該当するものを○で囲んでください。</p> <p>交通・モビリティ 物流 産業 担い手確保・人材育成 健康・医療 教育 観光環境 エネルギー 防災 その他</p>
(3) 新技術の導入による課題解決の方向性(イメージでも可)	
<p><b>【水産業】</b> 漁場の回復を図る対策を漁業協同組合で毎年施しているが、10年前の漁獲量は期待できない状況である。漁業の生産額を向上させるためにも陸上養殖による生産管理システムと販売管理システムをIoT、ICT技術等、新技術を活用し、構築したい。</p> <p><b>【観光業】</b> 伊豆大島ジオパークを知り楽しむ等新たなツアー造成や、既存ツアーの質の向上を図り、利用者のニーズに応じたガイドを容易に依頼できる窓口や紹介システムを整備し、パートナー企業や旅行代理店と連携し、ニーズに応じたツーリズムの需要開拓を行いたい。</p>	

(4) その他

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
政策推進課	川島正憲	04992-2-1444	<a href="mailto:c010001@town.tokyo-oshima.lg.jp">c010001@town.tokyo-oshima.lg.jp</a>

地方公共団体名： 愛知県南知多町

○提案内容

(1) 実現したい島のビジョン・方向性

【実現したいビジョン】

～いつまでも安心して快適に住み続けられる環境を整え、定住人口、交流人口、関係人口は拡大する離島への実証～

少子高齢化が進む日本において、離島振興法の指定地域とされる離島の活性化は様々な課題のなかでも重要な位置にあり、文化・風土を含むそれらの資源は日本の未来に残していくべく貴重な財産である。

政府の掲げる「働き方改革」、「新しい生活様式」において、テレワーク、サテライトオフィスやワーケーションが推奨されているが、都市部から離れた場所、特に離島は限らない可能性を秘めた地域といえる。

【背景】

南知多町は三大都市圏である名古屋市から南に延びる知多半島の南部に位置し、愛知県にある3つの有人離島のうち篠島・日間賀島の2島を有する町である。篠島・日間賀島へは南知多町の最南端の師崎港から高速船で約10分でほどの距離にある離島である。

日間賀島の面積は0.77km<sup>2</sup>、人口は1,847人、篠島の面積は0.94km<sup>2</sup>、1,617人と一定の人口を有し、漁業と観光の島として多くの観光客が訪れている。しかし、離島という地理的条件もあり、人口減少、少子高齢化による教育や医療、観光などで問題を抱えている。

【面積・人口はR02.04.01現在】

【島のビジョン】

「遠隔」をキーワードにICTやセンシング技術等を活用し篠島・日間賀島の島民が町から離れた場所でも「いつまでも安心して快適に住み続けられる環境を整え、定住人口、交流人口、関係人口は拡大する離島」を目指す。

昔から島民に息づく「困ったときはお互いさま」という古き良き日本のお隣文化が残る島であるからこそ、先進的な技術と融合させることにより無限の可能性を秘めていると考える。また、これまでいろいろなことに取り組んできた島であることから、来島した観光客とも一丸となって取り組みやすい環境にあることから、愛知県の篠島・日間賀島で実現させる価値があると考え。

(2) 新技術の導入により解決したい離島の課題

課題の分類

①健康・医療

【目的・課題】医師のいない時間帯の救急搬送の手段

【導入する技術】救命救急の専門家や医師などとのオンライン連携のシステム

【対象地域】篠島・日間賀島

②防 災

【目的・課題】災害時など医師のいない時間帯の救急搬送の手段

【導入する技術】救命救急の専門家や医師などとのオンライン連携のシステム

【対象地域】篠島・日間賀島

③観 光

【目的・課題】コロナ禍における新たな観光客の誘致に向けた新たな情報コンテンツ

【導入する技術】バーチャル体験と実体験を併せた付加価値の高い観光をICT技術を活用したコンテンツ作成

【対象地域】篠島・日間賀島

④交通・モビリティ

【目的・課題】安全に島内移動できる手段が人手不足により確保できない

【導入する技術】小型電動モビリティ及び電動モビリティの自動化

【対象地域】篠島・日間賀島

⑤教 育

【目的・課題】児童生徒間の多様な交流・実体験を伴う学習活動(社会見学)に地理的な制約を受ける

【導入する技術】遠隔交流授業等の構築

【対象地域】篠島・日間賀島

⑥物 流

【目的・課題】日用品等のバリエーションが少なく、輸送コストがかかる

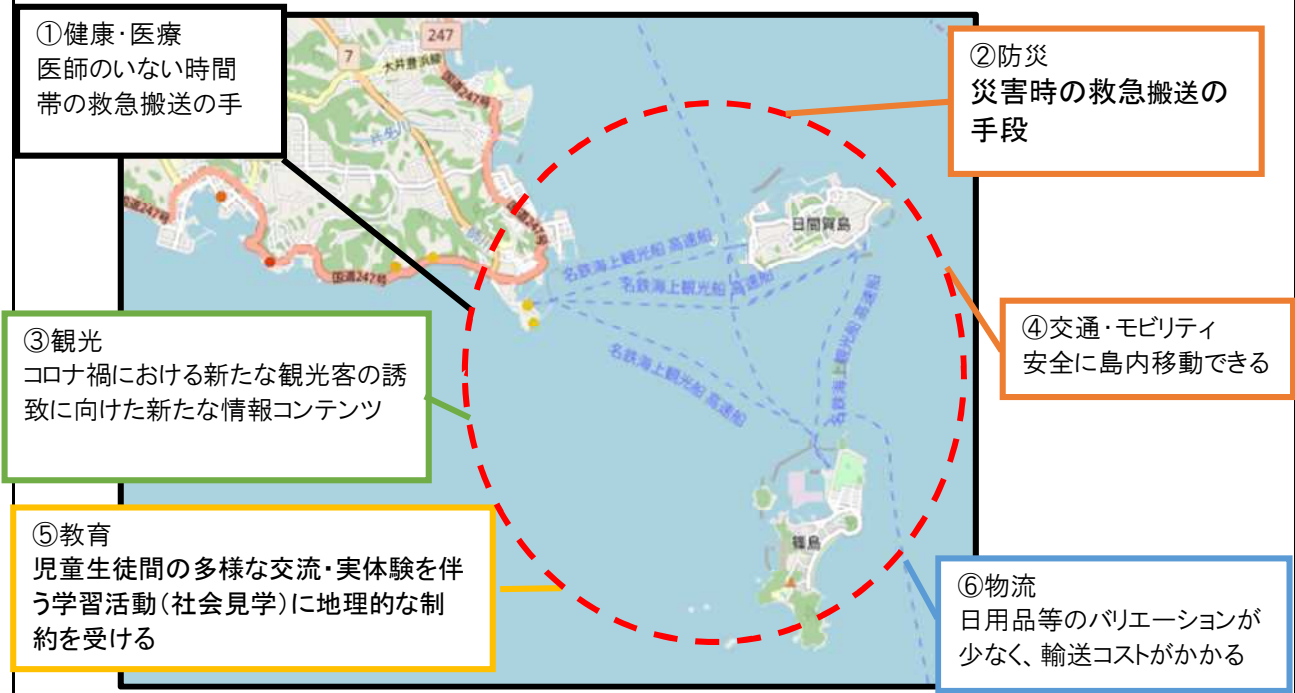
【導入する技術】ドローンを利用した恒常的な輸送システム

【対象地域】篠島・日間賀島

下記のうち、該当するものを○で囲んでください。

- 交通・モビリティ
- 物流
- 産業
- 担い手確保・人材育成
- 健康・医療
- 教育
- 観光
- 環境
- エネルギー
- 防災
- その他

(3) 新技術の導入による課題解決の方向性(イメージでも可)



(4) その他

特にありません。

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
企画部 地域振興課	滝本 恭史	(0569)65-0711 内線 321	<a href="mailto:chiiki@town.town.minamichita.lg.jp">chiiki@town.town.minamichita.lg.jp</a>

地方公共団体名: 岡山県笠岡市

○提案内容

(1)実現したい島のビジョン・方向性	
<p><b>ビジョン 「いつまでも安心して住み続けることができる笠岡諸島」</b></p> <p>笠岡諸島は、岡山県の南西端の笠岡市沖にあり、瀬戸内海のほぼ中心に位置する。大小30余りの島々からなり、その内の高島、白石島、北木島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島の7島が有人島である。</p> <p>伝統的な祭事なども残っており、歴史的な面でも多様な遺跡、文化、伝統などがそれぞれの島の大きな特徴となっている。特に「白石踊」は国指定重要無形民族文化財に指定されている。</p> <p>令和元年5月には、笠岡市、丸亀市、小豆島町、土庄町の2市2町により共同申請していた「知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～」が日本遺産認定された。4市町の構成文化財は48件で、笠岡諸島からは、北木島の丁場(石切り場)、旧映画館「光劇場」、大飛島遺跡など12件が組み込まれている。しかしながら、PR不足のため観光客誘致に結び付いていないため、積極的に日本遺産をPRすることにより、交流人口を増やしていく必要がある。</p> <p>基幹産業は、かつては石材業、漁業、観光業などが盛んだったが、現在はどれも衰退傾向にある。</p> <p>笠岡諸島の人口は、昭和35年には1万1千人を超えていたが、大きく減少しており、現在は1,520人となっている。また、高齢化率は71.2%と笠岡市全体の高齢化率37.0%に比べてかなり高くなっている。(令和2年11月1日現在住民基本台帳)</p> <p>このような状況の中、島民、民間団体、行政との協働を通じて地域コミュニティの継続的な維持を図りつつ、災害時対策、医療体制の充実、イノシシ駆除対策、職場環境の整備等に取り組み、SDGsの目標である「住み続けられるまちづくりを」目指し、島で生まれ島で育った方々がいつまでも安心して住み続けることができる環境を実現する必要がある。</p>	
(2)新技術の導入により解決したい離島の課題	課題の分類
<p>笠岡諸島は、かつては石材業をはじめ島内の産業が盛んで、娯楽施設も営業するなど島内で経済が循環し生活が成り立っていた。しかし、次第に島内で経済がなりたたなくなり、一部離島といった陸地部に近い環境のため、島の人が陸地部に移り住みやすいこともあり、大幅に人口が減少した。その結果、子どもがいなくなり小中学校が廃校や休校になった島もあり、また人がいないことにより島へ渡る船の便数も大幅に減るといふ悪循環に陥っている。高齢化が進行しても、いつまでも暮らせる環境づくりを進めなければならない。</p> <p><b>課題①</b> 津波や地震などの大型災害などが発生した際、港の崩壊や災害ゴミのため、船を港につけることができず、長期間孤立してしまうおそれがある。 そこで、災害時でも安定した物資を提供できるように環境を整える必要がある。 また、長期間生活することになる避難所においても通信網の確保が必要である。 さらに、早期に災害状況を把握することが必要である。</p> <p><b>課題②</b> 人口減少に伴い店舗が減り、高齢者が島内で買い物をするのが出来なくなっている。また、輸送費等のコスト高による採算割れのため、石油製品の販売維持が難しくなっている。</p> <p><b>課題③</b> 島内の診療所には、陸地部から医師が船舶で通い、島には常駐医師がおらず、月に2回しか受診できない島もある。さらに海が荒れた時には医師が島に行けず受診できなくなる。</p> <p><b>課題④</b> 笠岡諸島は日本遺産に認定されたものの知名度が低く、また十分な観光客収容のためのPR素材が不足している。また、さらに島の魅力を十分に感じる事が出来るアクティビティを充実させることが必要である。</p> <p><b>課題⑤</b> 人口減少に伴い農地が荒れ、イノシシの増加による被害が深刻である。 笠岡諸島には単身高齢者が多く、「イノシシが怖くて外を出歩けない」、「家庭菜園をしても荒らされるから辞めた」といった島民も多く、高齢者が一人で家にいる時間が長くなり、安否確認が遅れたり、認知症の増加につながるという課題がある。</p> <p><b>課題⑥</b> 島嶼部では働く場所がほとんどなく、若者が島から出ていってしまう。 また、島嶼部の無線インターネットサービスが令和3年3月31日で終了となる。 そこで、テレワーク等に対応できるように環境を整える必要がある。</p> <p><b>課題⑦</b> 島嶼部の救急患者の搬送は、最寄りの港まで地元消防団の方が対応している。 しかし、地元消防団の方も高齢化(平均年齢60代後半)しており、車も通れない場所が多く搬送が困難になっている。</p>	<p>下記のうち、該当するものを○で囲んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通・モビリティ</li> <li>ティ</li> <li>物流</li> <li>産業</li> <li>担い手確保・人材育成</li> <li>健康・医療</li> <li>教育</li> <li>観光</li> <li>環境</li> <li>エネルギー</li> <li>防災</li> <li>その他</li> </ul>

### (3) 新技術の導入による課題解決の方向性(イメージでも可)

#### 課題①の解決策

災害時での通信網を確保するため、避難所に公衆無線LAN(Wi-Fi)の整備を行う。併せて太陽光発電と蓄電池システムの整備を行う。

また、ドローン等による緊急物資の配送及び災害状況調査を行う。

#### 課題②の解決策

ドローン等により、少量の商品や石油製品を、持続可能な形態で島嶼部へ配送できるようにする。

#### 課題③の解決策

船が欠航して医師が島に行けない時には、ICTを用いた遠隔診療により、島の患者が受診できるようにする。

#### 課題④の解決策

ドローン等を活用した空撮により、新たな視点での観光PR素材を充実させ、島の魅力を最大限伝えられるようにする。また、ドローン等を島内観光の1つのアクティビティとして活用できる仕組みを構築し、ここでしか出来ない経験を提供する。

#### 課題⑤の解決策

固定カメラやドローン等を用いて、イノシシの生息域や活動状況の調査を行う。状況把握を行った後、イノシシを捕獲するための罠の設置や超音波等により害獣被害を減らす対策を行う。

また、単身高齢者がトイレのライトを付けると、AIスピーカーが会話をし、サーモセンサーで体温を測ることにより、体調の異常や認知症を早期に発見し、親族等に通報するシステムの整備を行う。

#### 課題⑥の解決策

ローカル5G環境の整備を行う。

#### 課題⑦の解決策

狭隘な道でも自動運転による搬送ができるシステムの整備を行う。

### (4) その他

#### ○参考

・笠岡諸島イノシシ捕獲数 87頭(2019年4月～2020年3月末現在)  
106頭(2020年4月～2020年11月末現在)

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

#### ○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
政策部企画政策課	大岸 憲司	0865-68-2004	<a href="mailto:kikakuseisaku@city.kasaoka.lg.jp">kikakuseisaku@city.kasaoka.lg.jp</a>

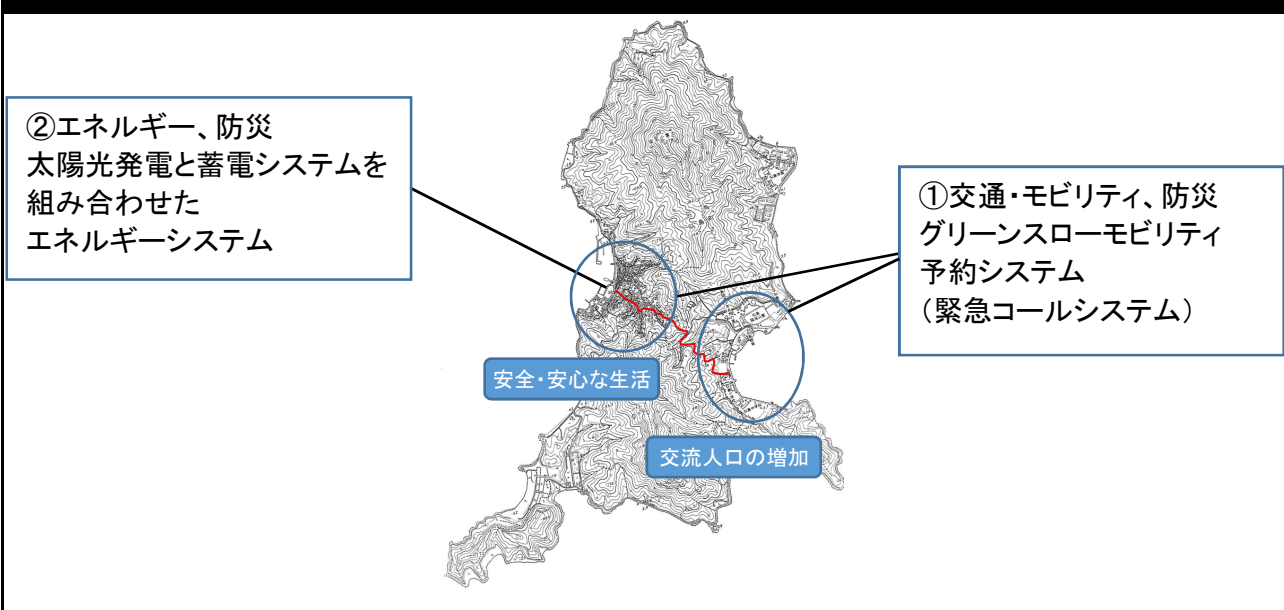
地方公共団体名： 広島市

○提案内容

(1)実現したい島のビジョン・方向性	
<p><b>【似島について】</b>                      似島は、本土広島市の南約3kmに位置する面積3.87km<sup>2</sup>、周囲約16kmの広島湾内の小島で、標高278mの安芸小富士と標高203mの下高山が並び立ち、この両山の峰に挟まれた地域の西側に集落があり、島の東側には、似島臨海少年自然の家や小・中学校、通所介護事業も行う特別養護老人施設などがある。                      年間を通じ温暖で、比較的少雨の瀬戸内海式気候に属し、冬期も積雪はほとんどない。                      人口は761人(令和2年4月1日現在)で高齢化率は52.3%であり、10年前の人口1,020人、高齢化率44.9%と比べ、人口減少及び高齢化が進んでいる。                      航路については、人口の減少と高齢化により、便数の減少などのサービス低下や航路そのものの確保が今後より一層厳しくなることが懸念されており、観光振興などにより島外からの来訪者を増やすことにより航路の維持を図り、雇用の創出や生活環境の維持・向上を図っていく必要がある。                      このため、島内最大の集客力を有する似島臨海少年自然の家では、利用者数の増加を図るため再整備を進めているほか、似島小・中学校では、学区を越えて児童生徒を受け入れる「いきいき体験オープンスクール」事業を実施するとともに、令和2年度からは「小中一貫教育校」に移行し、地域特性を生かしたより魅力的な教育を推進している。</p> <p><b>【将来のビジョン】</b>                      島内の移動性を高めることで来訪者の利便性を高め、交流人口の増加を図る。                      生活の安心・安全性を高めるとともに、集落内や島の東西の移動性を高めることで、生活の利便性の向上や東側での地域活動への住民参加の促進を図る。                      さらに、島内交通に留まらず、島内モビリティと島を渡るフェリー、フェリーと中心市街地につながる路面電車とのシームレス化を図る。</p>	
(2)新技術の導入により解決したい離島の課題	課題の分類
<p>① 交通・モビリティ、防災</p> <p><b>【課題】</b>                      島内にバス・タクシー等の交通機関がないことから、高齢者や小中学生の島内移動に制約がある。                      東西を結ぶ島内の主要道路の1つである横断道路については、集落の中を通っており拡幅が困難な狭隘な道路である。                      似島臨海少年自然の家は似島港から徒歩30分、似島学園前棧橋から徒歩20分と利便性が良くない。</p> <p><b>【導入する技術】</b>                      グリーンスローモビリティ・予約システム                      狭隘な道路も通行可能なグリーンスローモビリティを活用した地域交通システム導入による島内交通の確保                      遠隔監視により地域住民による運行の安全性の確保                      利用者の利便性及び運用の効率性に資する予約システムの導入                      予約システム及びモビリティを災害時には緊急コールシステム及び避難所への移動手段として活用する。</p> <p>② エネルギー、防災</p> <p><b>【課題】</b>                      島内にガソリンスタンドが無いことから、平常時の給油や災害時のエネルギー確保に課題がある。</p> <p><b>【導入する技術】</b>                      太陽光発電や既存の商用電源と蓄電システムを組み合わせたエネルギーシステム                      災害時等で商用電源の供給が無くなった際に活用するとともに、EV車両からの給電も可能なEV車両充電施設(V2H対応)を整備し、平常時にはEV車両等への給電を行う。</p>	<p>下記のうち、該当するものを○で囲んでください。</p> <p>交通・モビリティ                      物流                      産業                      担い手確保・人材育成                      健康・医療                      教育                      観光                      環境                      エネルギー                      防災                      その他</p>



(3) 新技術の導入による課題解決の方向性(イメージでも可)



(4) その他

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
企画総務局 地域活性化調整部 地域活性推進課	野木	082-504-2837	<a href="mailto:chiikikassei@city.hiroshima.lg.jp">chiikikassei@city.hiroshima.lg.jp</a>

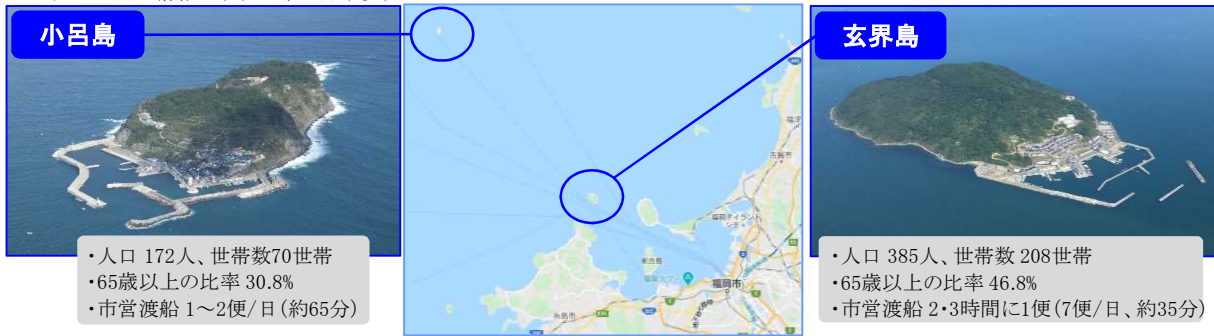
地方公共団体名: 福岡市

○提案内容

**(1)実現したい島のビジョン・方向性**

○令和元年12月に策定された第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、Society5.0の実現に向けた技術は、特に、課題を多く抱える地方においてこそ、導入を進めることが重要であるとされております。  
 ○福岡市においても、Society5.0を実現するため、IoTなどを活用した実証実験の支援や、ビッグデータ・AIの活用促進などに取り組み、未来技術を暮らしやまちづくりの様々な場面で活用する超スマート社会へのチャレンジを進めているところです。  
 ○また、福岡市には離島振興法による離島振興対策実施地域に指定されている、玄界島(げんかいじま)及び小呂島(おろのしま)があり(下図参照)、住民の生活の安定と福祉の向上を図ることを目的として策定された離島振興計画に基づき、島の自立的発展と住民による主体的な島づくりの促進に向け取り組んでいます。  
 ○地理的環境や高齢化など、離島特有の課題の解決に未来技術を活用することにより、持続的・効率的なインフラの構築に繋げ、島民の安心・安全な暮らしを支えることで市民生活の質の向上を図ります。

※人口などの情報は令和2年9月末現在



**(2)新技術の導入により解決したい離島の課題**

課題の分類

新技術の導入により解決したい離島の課題として、以下の3点が挙げられます。

- ①生活品等の安定的な輸送
  - ・玄界島においては、荒天が続くと島内にある漁協購買部にて販売される生活品(市営渡船にて輸送)が売り切れてしまうことが多く、島民の方が必要な時に必要なものを購入できるとは限らない状況です。
  - ・小呂島は市営能古渡船場から直線距離で約40kmもある上、天候により市営渡船は欠航し、欠航率は32.8%(令和元年度実績)です。また、漁協購買部は月曜及び金曜のみ開いており、天候によっては1週間ほど生鮮品が届かないこともあります。
- ②医薬品の輸送
  - ・島にはそれぞれ福岡市立の玄界診療所、小呂診療所がありますが、診療所に対応できない専門医療や調剤については島外の医療施設の利用により、対応されています。
  - ・地震などの緊急時に備えて、地域住民には薬が切れる1週間前の受診が勧められていますが、薬の在庫が切れているときや渡船時間に間に合わない場合は翌日以降に再度取りに行く必要があり、特に高齢の方には負担になっています。
- ③その他(通信環境確保・密漁監視)
  - ・いずれの島も光ファイバーが敷設されておらず、高速・大容量通信を必要とするリモートワークやオンライン診療、動画視聴のために必要な通信環境が整っていません。
  - ・夜間の密漁監視については、関係者が漁協に常駐し通報があれば駆け付けける体制を取っているものの、密漁者の確保に繋がるケースは少ない状況です。

下記のうち、該当するものを○で囲んでください。

- 交通・モビリティ
- 物流
- 産業
- 担い手確保・人材育成
- 健康・医療
- 教育
- 観光
- 環境
- エネルギー
- 防災
- その他

**(3)新技術の導入による課題解決の方向性(イメージでも可)**

上記課題の解決方法として、以下のとおり提案します。

- ①生活品等の安定的な輸送
  - ・本土から離島への生活品等のオンデマンド配送におけるドローンの活用。特に、本土から離れた小呂島については、VTOLなど航続距離の長い機体の活用が必要。
- ②医薬品の輸送
  - ・必要な医薬品がない場合やオンライン診療・遠隔服薬指導後における処方箋医薬品のドローンによる配送
- ③その他(通信環境確保・密漁監視)
  - ・光ファイバーに代わる高速ブロードバンドサービスの提供
  - ・赤外線カメラを搭載したドローンによる夜間の密漁監視と、海上保安庁等への自動通報

(4)その他

【実績】本市における主なドローン実証実験

時期	実証内容	飛行ルート
R2.11.30～12.5	日用品・処方薬の即時配送	能古島⇄西区小戸
R1.7.30～8.2	物流困難地域への配送、 宅配サービス実現に向けた検証	玄界島⇄能古島、 玄界島⇄西区小田
R1.5.14～16	物流困難地域への配送	玄界島⇄西区唐泊港
H30.11.20～22	船舶輸送代替によるCO2削減効果検証	玄界島⇄西区唐泊港
H28.11.15	セルラードローンを活用した買い物代行	能古島⇄西区小戸
H28.10.24	災害時医薬品配送	能古島⇄西区小戸

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
総務企画局企画調整部	濱口	092-711-4125	<a href="mailto:mirai@city.fukuoka.lg.jp">mirai@city.fukuoka.lg.jp</a>

地方公共団体名： 佐世保市

○提案内容

<p><b>(1) 実現したい島のビジョン・方向性</b></p> <p>(黒島の背景)                  ●佐世保市黒島町は、人口減少の進む過疎の島(R2.6.1時点 394人、高齢化率50%超)で高齢者単独世帯が多く、公共交通が無い。過疎化と高齢化が加速しており、島の生活基盤の維持(モビリティ、生活必需品等の流通、医療など)の維持が重要な課題である。                  ●他方、H30.7に世界遺産登録「黒島の集落(構成遺産)」され、これを契機として海外からも観光客が来訪する等、地域活性化への期待も高い。                  ●また、R3年度には総務省高度無線環境整備推進事業を活用した情報通信環境整備を実施する予定である。</p> <p>(方向性)                  『黒島の集落の維持』、『持続可能な島の地域づくり』を可能とするため、スマートな施策(モビリティ・流通・医療を中心に)を実践し、社会実装に繋がる検討・調査を実施。将来的には、佐世保市内、他の離島の過疎地域の維持振興につなげる。</p>			
<p><b>(2) 新技術の導入により解決したい離島の課題</b></p> <p>●島民と来訪者の移動手段不足                  黒島島内にはバス・タクシー等の公共交通機関がなく、高齢化によって島内での運転士確保も厳しい。自家用有償運送などの新たな制度の運用も困難であるため、島民の移動手段が徒歩のみという状況となっている。島民のみならず観光客の移動手段と兼用することで採算性を高める等の持続可能な運用面の工夫も求められる。</p> <p>●生活必需品等の調達の不便さ                  島内の小売店(商店)は少数であるが存在するものの、商店の経営者も高齢化し、島内人口も減少しているため、小売店減少も懸念される。また、本土から島への生活必需品等の物品調達手段は(物流交通手段)は船のみであり、本土の小売店より調達スピードが遅く、種類も少ない。加えて、島と本土を結ぶ物流手段が船のみであるため、港が災害等により損傷した際の代替手段が皆無である。</p> <p>●医師が常駐しないことによる医療サービスを受ける機会の減少                  現在黒島では医師が常駐していないため、週に2日、本土から医師が来島し診療を行っているが専門医ではない為、例えば、眼科や耳鼻科は本土の診療所を利用する他ない状況である。</p> <p>●災害発生時の対応遅延                  消防局の出張所等も黒島にはなく、対応職員が本土から島へ渡る移動手段が船に限られるため、即座に災害情報の収集等の対応ができない。また、停電等の復旧にも本土と比較して時間を要することが想定される。</p>	<p><b>課題の分類</b></p> <p>下記のうち、該当するものを○で囲んでください。</p> <p>交通・モビリティ                  物流                  産業                  担い手確保・人材育成                  健康・医療                  教育                  観光                  環境                  エネルギー                  防災                  その他</p>		
<p><b>(3) 新技術の導入による課題解決の方向性(イメージでも可)</b></p> <p>1 新モビリティを活用した島内移動手段の確保                  2 キャッシュレス化やドローン輸送等による黒島島民の生活基盤の充実                  3 ICTを活用した医療環境等の充実                  4 ドローン、ICTを活用した防災機能の強化                  5 蓄電池・太陽光パネルによる防災レジリエンスの強化</p>			
<p><b>島内移動手段の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電動バイク・セニアカーの導入。</li> <li>・自動運転等による運転手不足への対応</li> </ul>	<p><b>島民の生活基盤の充</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流人口の消費拡大による小売店舗の維持</li> <li>・購買データ管理によるロスの少ない流通ラインの実現</li> <li>・新たな物流手段の確保(災害時含む)</li> </ul>	<p><b>新技術</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンスローモビリティ自動運転</li> <li>キャッシュレス</li> <li>ICT技術 高速通信技術</li> <li>ドローン</li> <li>発電・蓄電技術</li> </ul>	<p><b>医療環境等の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔医療の充実</li> </ul> <p><b>防災機能の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔でのインフラの点検、自動監視</li> <li>・本土への災害情報の速達</li> </ul> <p><b>防災レジリエンスの強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・停電時の対応</li> <li>・災害時のエネルギー調達(発電)</li> </ul>

(4)その他

◆黒島において交通機関を導入するためには、運転手の負担が小さい自動運転システムの導入のみならず、遠隔での車両点検など安全な運航に係る負担軽減も検討する必要がある。

◆西海国立公園(九十九島)やハウステンボスから世界遺産の黒島といった周遊を円滑に図るために、スマホの衛星利用測位システム(GPS)や画像認識機能とAIなどを組み合わせ、目的地までのシームレスな周遊ルートの案内体制の整備が求められる。

◆併せて、島民の移動利便性向上のみならず世界遺産を活用したインバウンド観光の受け入れ等を推進する為、アプリ等を利用した島内交通機関の予約・決済をスマートフォン等で行えるシステムの構築。さらには本土市街地からの、鉄道、バス、タクシー、フェリー、島内移動乗り物、宿泊等の一連の予約および決済を簡単にできるシステムの導入が求められる。

◆バス運転士の高齢化により路線バスが維持できず、近い将来黒島と同様の状況となることが懸念される。黒島で構築した交通システムを本市の他の離島(国境離島である宇久島)において展開する可能性も探りたい。

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
企画部 政策経営課、 地域政策課	山口、井上 磯本	0956-25-9620 0956-25-9708	<a href="mailto:seisak@city.sasebo.lg.jp">seisak@city.sasebo.lg.jp</a> <a href="mailto:tiikis@city.sasebo.lg.jp">tiikis@city.sasebo.lg.jp</a>